

◆ 今週のコメント

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は、0.92(36例)です。第28週をピークに減少傾向にありますが、依然として過去5年の平均値を上回っています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、0.51(20例)で、前週(0.33)に比べ増加しています。年齢階級別では、4歳以下の占める割合が、65.0%(13例)となっています。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.15(6例)で、前週(0.08)に比べ増加しています。年齢階級別では、2～6歳で報告があります。
- ・ 平成22年の京都市内の感染症の発生動向を取りまとめた「平成22年京都市感染症発生動向調査事業実施報告書」をホームページに掲載しましたので、下記アドレスを御覧ください。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000108823.html>

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.21(8例)で、前週(0.33)にひき続き、この時期にしては、非常に多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

ありません

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0.02	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.69	66
	② 手足口病	0.92	36
	③ 水痘	0.51	20
	④ ヘルパンギーナ	0.33	13
	⑤ 突発性発しん	0.31	12
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

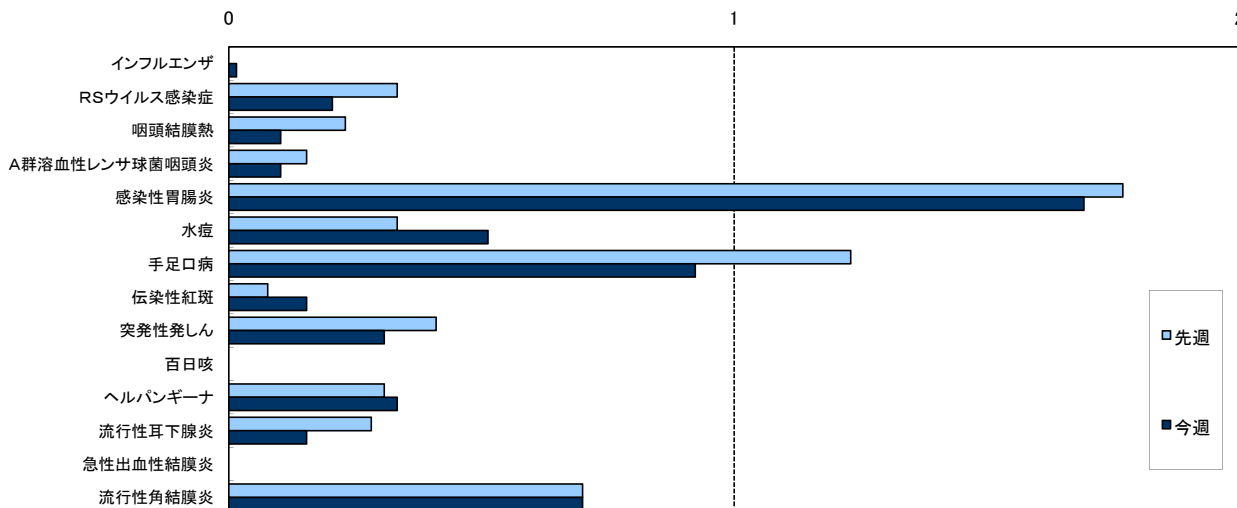
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

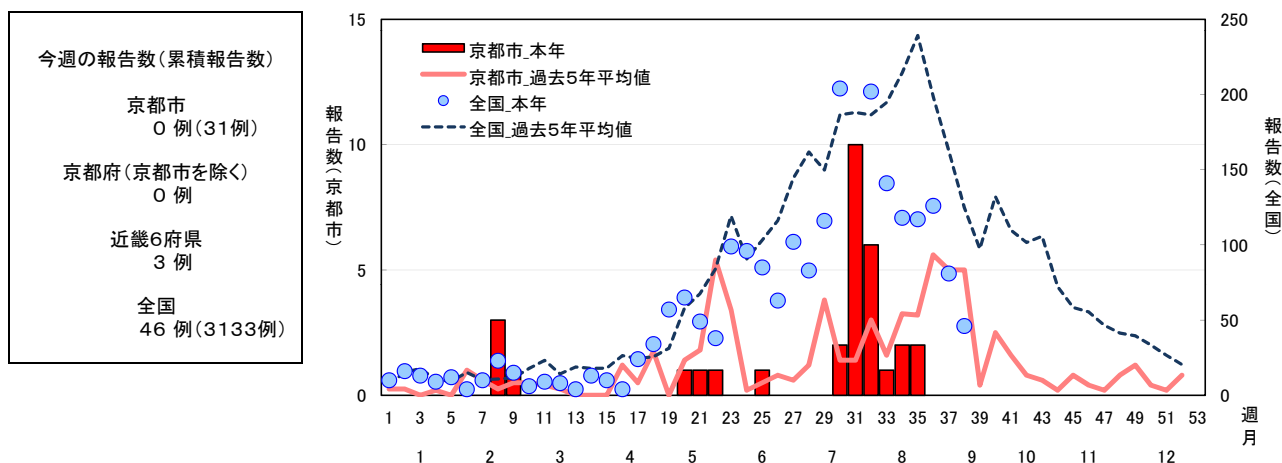
(注) 京都市のデータは、平成23年9月29日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第38週)と先週(第37週)の定点当たり報告数の比較

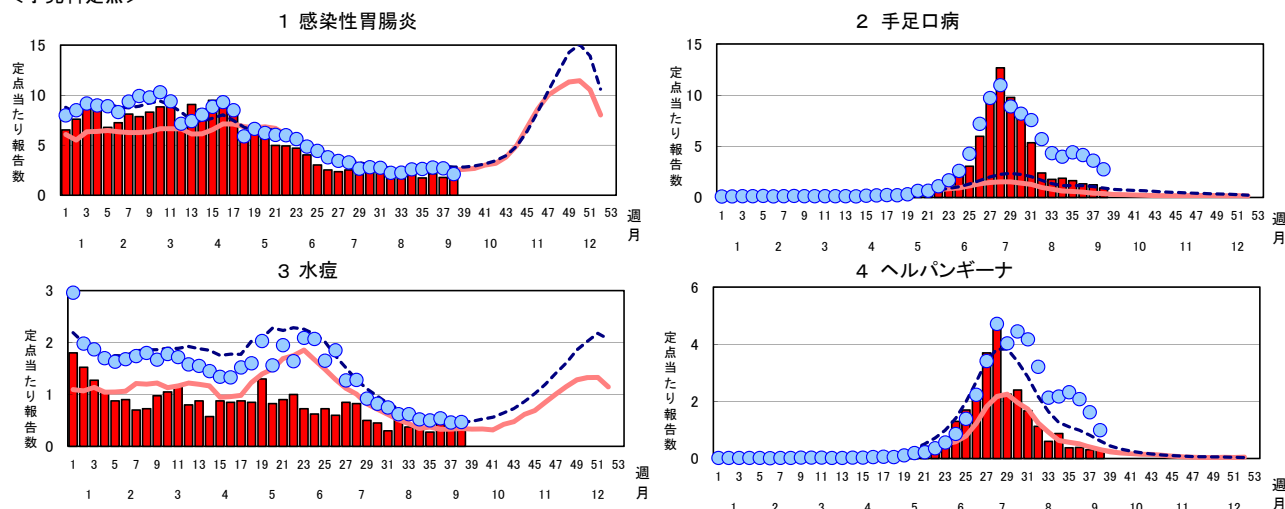


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

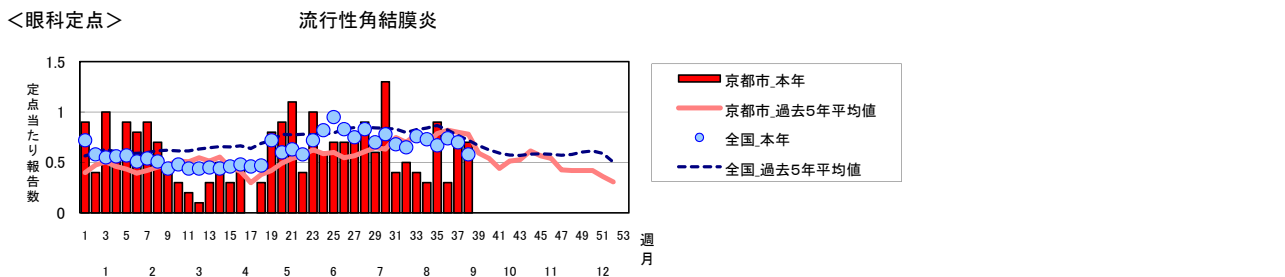


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

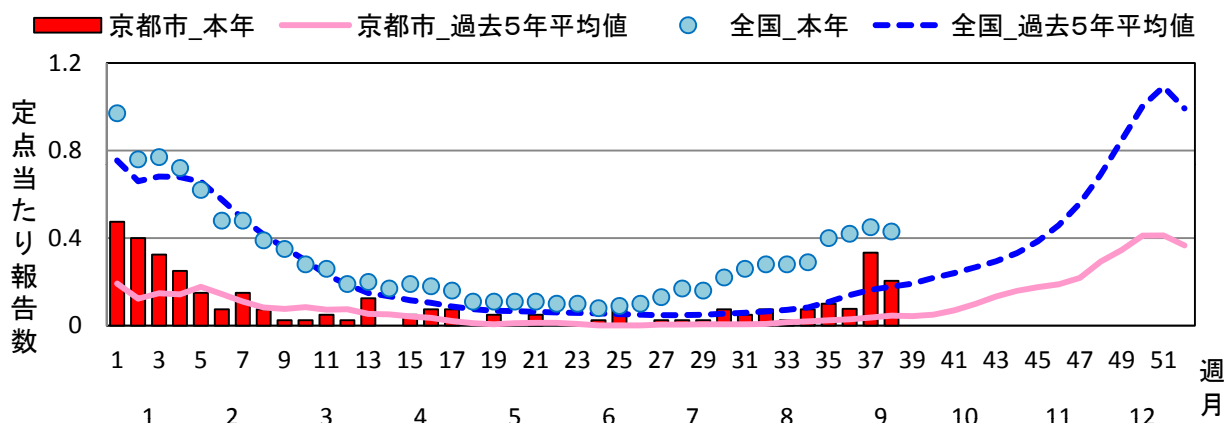


第38週(9月19日～9月25日)トピックス: <RSウイルス感染症>

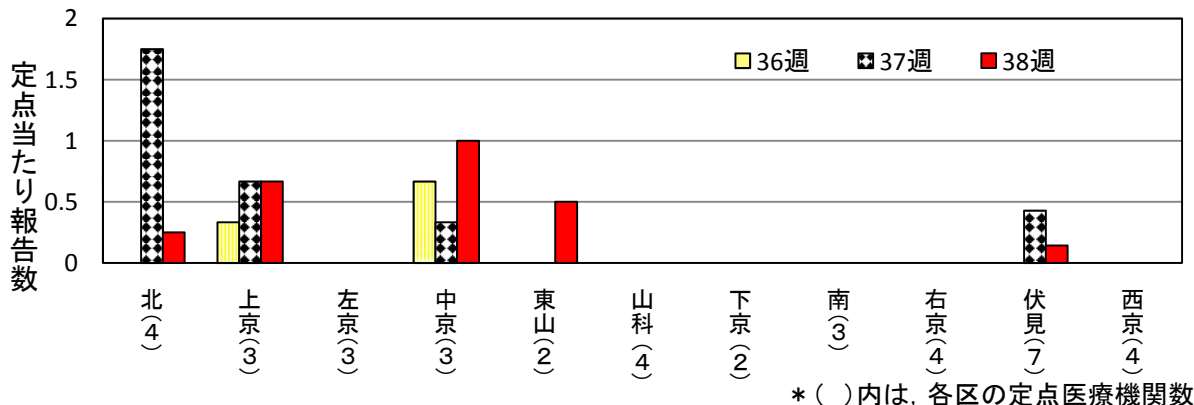
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.21(8例)で、前週(0.33)にひき続き、この時期にしては、非常に多くなっています。行政区別では、中京区、上京区、東山区、北区、伏見区で報告があります。近畿では、大阪府で報告が多くなっています。例年、秋から冬にかけて報告が増大しており、今後の動向に注意が必要です。

京都市衛生環境研究所ホームページに、RSウイルス感染症についての情報を掲載しています。
微生物部門ホームページ RSウイルス感染症について
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000076939.html>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



行政区別 定点当たり報告数の推移



近畿各府県の定点当たり報告数の推移

